

平令和2年度 甲府市立北中学校スクールプラン（学校教育目標、学校経営の努力点、指導重点）と評価

学校教育目標		個性豊かな民主的実践人～自らのよさを発揮して、誰とでも仲良く、行動できる人～			
めざす学校像	★ 楽しい学校	めざす生徒像	★ 自ら学ぶ生徒	めざす教師像	★ 熱意ある教師
	★ 活力ある学校		★ 素直な心を持つ生徒		★ 責任感ある教師
	★ 美しい学校		★ 健康な体をつくる生徒		★ 実践力ある教師
学校経営の努力点	(1) 確かな学力の定着 ①わかる授業、学びたい授業づくり ②家庭学習との連携を意識した授業づくり ③特別支援教育への理解と推進 (2) 心の教育の充実 ④道徳授業の充実による思い遣る心の育成 ⑤「自主活動」「自主管理」の精神の継承 ⑥自己有用感の育成と心の居場所づくり (3) 健康安全教育的の推進 ⑦自分の命は自分で守る「自助」意識の向上 ⑧進んで運動する態度の育成と体力の向上 ⑨危機管理マニュアルの点検と体制整備 (4) 開かれた学校づくりの推進 ⑩小中連携の推進と学校開放の充実 ⑪保護者・地域との信頼関係の醸成 ⑫地域と連携した教育活動の推進				
	本年度の指導重点	具体的な目標	評価指標(アンケート項目)	アンケート項目(番号)	
確かな学力	① 「甲府スタイル」授業の推進	① 教科の授業実践(一人一実践) 対話的な学び ICTを取り入れた授業 言語活動の充実	①「対話的で、深い学び」を意識した授業実践を行っているか。 発問・学習形態・ICTの活用	生①②保① 職①②④	
	② 家庭学習の充実と学習習慣の確立	② 自主学習の充実 家庭学習の手引きの活用	②家庭学習につなげる教科・学年の取り組みの成果はどうか。	生③④ 保②③ 職③	
	③ 特支教育に関する研修・共通理解の推進	③ 定期的な研修会・校内委員会の実施	③該当教師で評価し、来年度に生かす。		
心の教育	④ 「考え、議論する」道徳の授業の推進	④ 道徳の授業実践 授業研究会と評価学習会の実施	④「考え・議論する」場の設定をし、授業づくりを行っているか。	職⑧	
	⑤ 「北中プライド」の意識付けと学友会活動への支援	⑤ 学校生活の向上と学友会活動との連携	⑤自己管理の意識づけや思いやり、支え合う集団づくりに取り組んでいるか。 学年行事や学校行事への参加・取り組み	生⑨⑩⑫⑬保⑦⑨ ⑩⑪職⑨⑩⑪	
	⑥ 一人ひとりのよさを認め、生かす学級・学年運営	⑥ 職員間との情報交換 生徒理解 役割と責任 リーダーの育成	⑥生徒理解に努め、課題克服のための支援や諸活動の評価を適切に行っているか。	生⑤ 保⑨ 職⑤	
	⑦ いじめ・不登校の未然防止・早期対応	⑦ 定期的な対策委員会の実施 必要に応じた二者懇談 積極的な家庭訪問	⑦いじめのない学級づくりができているか。 自己有用感を高めるための場を設定しているか。 家庭との連携を図り、保護者との信頼関係づくりに努めているか。	生⑥⑦⑧⑩ 保④⑤⑥⑧ 職⑥⑦⑫	
健康安全教育的	⑧ 実践的な防災・防犯訓練の計画・実施	⑧ 授業中以外の避難訓練の実施 防犯に関する訓練・防災に関する学習	⑧危機管理マニュアルに基づき、避難訓練、防犯訓練など、安全・安心な学校づくり を意識した教育活動を行っているか。	生⑭⑯保⑫⑭ 職⑬⑭	
	⑨ がん教育等の健康課題への対応	⑨ がん教育等に関する講演会の実施	⑨該当教師で評価し、来年度に生かす。		
	⑩ 「体力づくり」Timeの充実	⑩ 学友会活動との連携 集団づくり	⑩健康を考えて体力づくりに励んでいるか。	生⑮保⑬職⑮	
開かれた学校づくり	⑪ 七校長会による情報交換と小中連携の推進	⑪学区小中合同研究会の開催 「NO スマホ Day」の実施	⑪該当教師で評価し、来年度に生かす。		
	⑫ 学校・学年だより等による情報提供	⑫ 学校だより等の発行と地域回覧	⑫学校・学年たよりを定期的に発行し、教育活動について家庭・地域に広く広報できているか。	保⑮⑯職⑯	
	⑬ 地域学習の推進	⑬ 「ふるさと山梨」の活用 「郷土学習コンクール」への参加	⑬該当教師で評価し、来年度に生かす。		
多忙化改善に向けて	◎ きずなの日の完全実施 ◎ 部活動基本方針に沿った活動の実施 ◎ 会議の効率化				

生徒用アンケート集計結果(令和3年度)

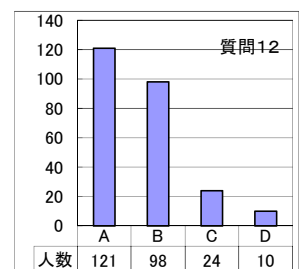
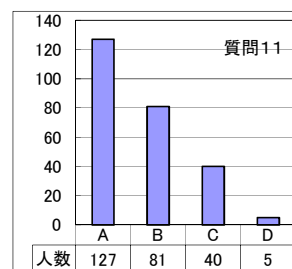
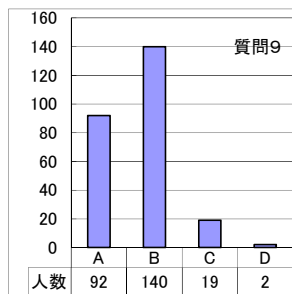
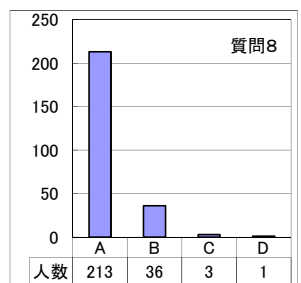
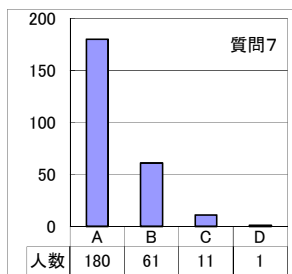
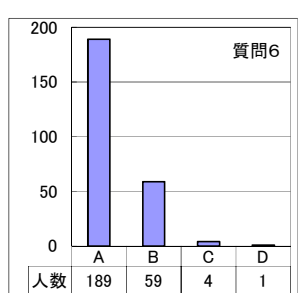
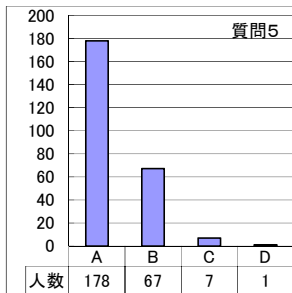
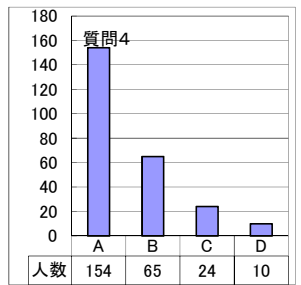
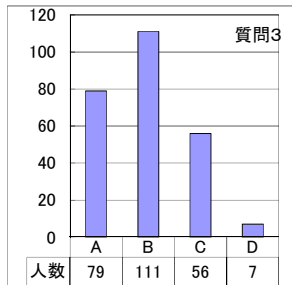
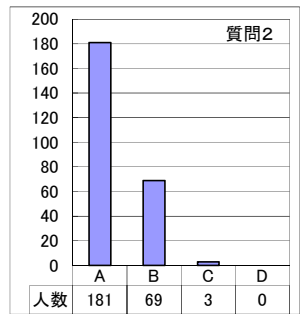
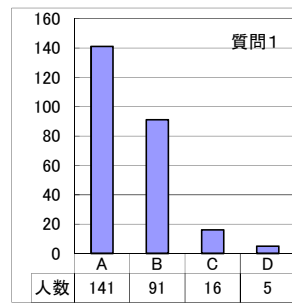
A よくできている(あてはまる)

B だいたいできている(あてはまる)

C あまりできていない(あてはまらない)

D できていない(あてはまらない)

質問	年	A	B	C	D	計
質問1 積極的に授業に参加し、課題解決やノートづくりに真剣に取り組んでいますか。	1年	48	39	7	2	96
	2年	50	23	5	1	79
	3年	43	29	4	2	78
	計	141	91	16	5	253
質問2 クロームブックやICT教材を活用した授業では、その使い方などを理解できていますか。	1年	72	23	1	0	96
	2年	55	23	1	0	79
	3年	54	23	1	0	78
	計	181	69	3	0	253
質問3 家庭学習に自主的に取り組んでいますか。	1年	27	48	19	2	96
	2年	20	31	25	3	79
	3年	32	32	12	2	78
	計	79	111	56	7	253
質問4 困ったことがあった時に、親・先生・友達に相談していますか。	1年	59	25	8	4	96
	2年	42	24	11	2	79
	3年	53	16	5	4	78
	計	154	65	24	10	253
質問5 学級や学年集団の中で、思いやりの心を持って接していますか。	1年	65	27	4	0	96
	2年	51	26	2	0	79
	3年	62	14	1	1	78
	計	178	67	7	1	253
質問6 清掃や係の仕事など、学級・学年の仕事に責任をもって取り組んでいますか。	1年	66	30	0	0	96
	2年	60	17	2	0	79
	3年	63	12	2	1	78
	計	189	59	4	1	253
質問7 学級・学年・その他の学校の活動の中で、やりがいを感じていますか。	1年	66	25	5	0	96
	2年	55	20	4	0	79
	3年	59	16	2	1	78
	計	180	61	11	1	253
質問8 学友会の活動(北陽祭などの行事・委員会活動等)に友人と協力し取り組んでいますか。	1年	76	18	2	0	96
	2年	69	9	1	0	79
	3年	68	9	0	1	78
	計	213	36	3	1	253
質問9 災害等に直面した時、正しく行動できると思えますか。	1年	44	45	6	1	96
	2年	22	51	6	0	79
	3年	26	44	7	1	78
	計	92	140	19	2	253
質問10 新しい生活様式を意識した生活ができていますか。	1年	60	32	3	1	96
	2年	35	41	3	0	79
	3年	46	29	3	0	78
	計	141	102	9	1	253
質問11 健康を考えて、体力づくりなど体力の向上に励んでいますか。	1年	60	24	10	2	96
	2年	36	29	13	1	79
	3年	31	28	17	2	78
	計	127	81	40	5	253
質問12 学校便り、学年・学級便りが発行されていますか。読んでいますか。	1年	43	42	10	1	96
	2年	31	31	12	5	79
	3年	47	25	2	4	78
	計	121	98	24	10	253



保護者用アンケート集計結果(令和3年度)

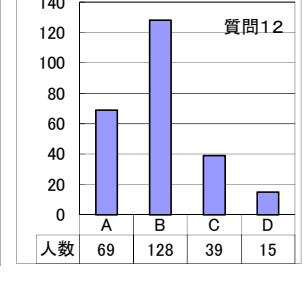
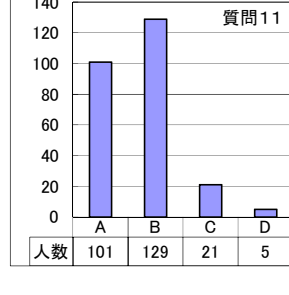
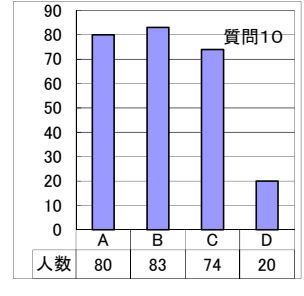
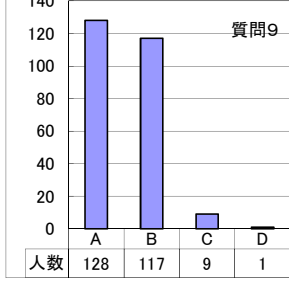
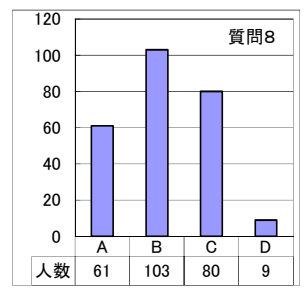
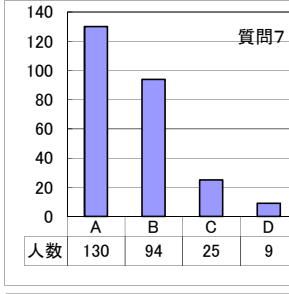
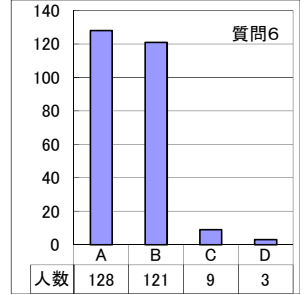
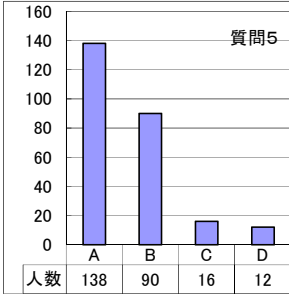
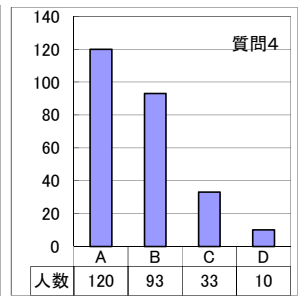
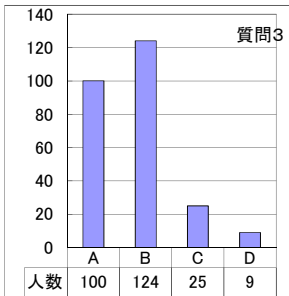
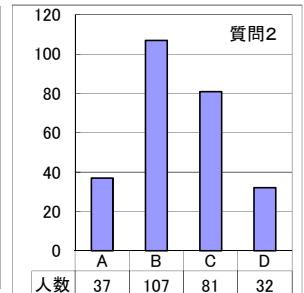
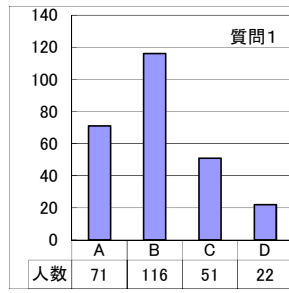
A よくできている(あてはまる)

B だいたいできている(あてはまる)

C あまりできていない(あてはまらない)

D できていない(あてはまらない)

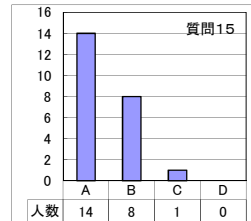
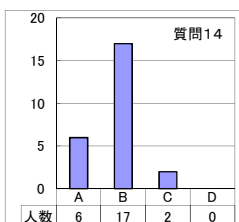
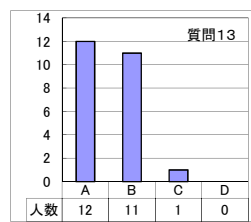
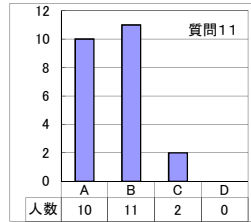
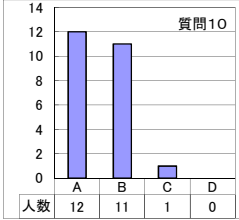
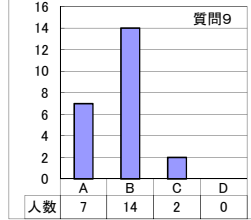
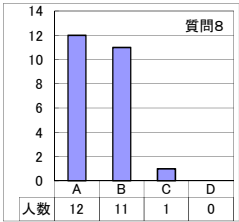
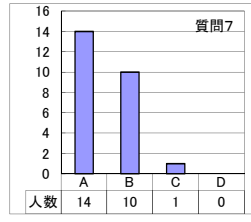
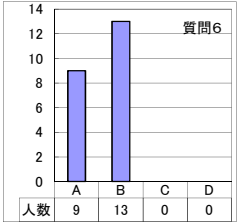
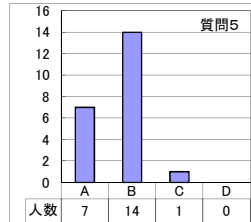
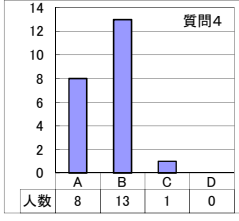
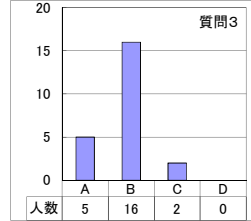
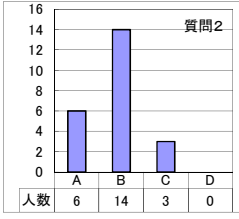
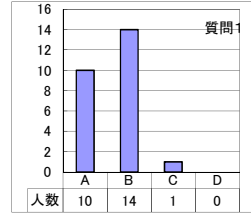
質問	年	A	B	C	D	計
質問1 お子さんは、学校の授業に意欲的に取り組み、授業の内容がわかっていると思いますか。	1年	25	50	26	12	113
	2年	23	33	13	2	71
	3年	23	33	12	8	76
	計	71	116	51	22	260
質問2 お子さんは、計画的に家庭学習を行っていますか。	1年	8	41	45	17	111
	2年	13	30	20	7	70
	3年	16	36	16	8	76
	計	37	107	81	32	257
質問3 お子さんは、困ったことがあった時に、親に相談しますか。	1年	43	57	6	5	111
	2年	25	36	11	0	72
	3年	32	31	8	4	75
	計	100	124	25	9	258
質問4 お子さんは、学校のことや友だちのことなど、家で話しますか。	1年	58	40	10	4	112
	2年	31	28	10	1	70
	3年	31	25	13	5	74
	計	120	93	33	10	256
質問5 お子さんは、学校の中で居場所があり、楽しく学校生活を送っていると思いますか。	1年	63	36	10	3	112
	2年	35	29	3	3	70
	3年	40	25	3	6	74
	計	138	90	16	12	256
質問6 お子さんは、友だちをはじめまわりの人に思いやり持って接していると思いますか。	1年	51	57	5	0	113
	2年	37	32	3	0	72
	3年	40	32	1	3	76
	計	128	121	9	3	261
質問7 お子さんは、学友会の活動(北陽祭などの行事・委員会活動等)に積極的に参加していると思いますか。	1年	63	39	9	2	113
	2年	34	28	7	1	70
	3年	33	27	9	6	75
	計	130	94	25	9	258
質問8 お子さんは、自然災害等、防災に関することを家庭内で確認していることがありますか。	1年	29	41	38	2	110
	2年	15	32	20	1	68
	3年	17	30	22	6	75
	計	61	103	80	9	253
質問9 お子さんは、感染症対策について、意識し生活していると思いますか。	1年	54	53	4	0	111
	2年	39	30	3	0	72
	3年	35	34	2	1	72
	計	128	117	9	1	255
質問10 お子さんは、進んで運動するなど、体力づくりに努めていますか。	1年	43	38	24	8	113
	2年	27	20	20	3	70
	3年	10	25	30	9	74
	計	80	83	74	20	257
質問11 学校・学年・学級だより・ホームページを通して、学校の様子がわかりますか。	1年	40	59	12	1	112
	2年	27	36	5	2	70
	3年	34	34	4	2	74
	計	101	129	21	5	256
質問12 PTA活動・学校行事への参加や参観をしたいと思いますか。	1年	29	55	17	10	111
	2年	20	39	8	2	69
	3年	20	34	14	3	71
	計	69	128	39	15	251



職員用アンケート集計結果(令和3年度)

- A よくあてはまる B ややあてはまる
C あまりあてはまらない D まったくあてはまらない

質問		A	B	C	D	計
質問1 発問・学習形態・ICTの活用など工夫して授業を行っている。	数	10	14	1	0	25
	%	40	56	4	0	100
質問2 教科の研修に努めるとともに、授業と家庭学習が連動するような工夫をしている。	数	6	14	3	0	23
	%	26	61	13	0	100
質問3 朝学習や新聞スクラップなど各学年の取り組みの成果は出ている。	数	5	16	2	0	23
	%	22	70	9	0	100
質問4 新しい評価内容を理解し、工夫して日々の学習について記録の蓄積に努めている。	数	8	13	1	0	22
	%	36	59	5	0	100
質問5 情報収集に努め、定期的な二者懇談の実施や職員間の情報交換を通して、個に応じた適切な支援に努めている。	数	7	14	1	0	22
	%	32	64	5	0	100
質問6 学習形態や発問を工夫し、「考え議論する」道徳の授業の実践に努めている。	数	9	13	0	0	22
	%	41	59	0	0	100
質問7 生徒の積極的な行事への参加を支援し、生徒理解に努め、信頼関係づくりに取り組んでいる。	数	14	10	1	0	25
	%	56	40	4	0	100
質問8 学級活動等、書k津堂の中で、思いやりの心を育て、支え合う集団づくり努めている。	数	12	11	1	0	24
	%	50	46	4	0	100
質問9 道徳、総合の時間を計画的に活用し、命を大切に、豊かな心育てる指導に努めている。	数	7	14	2	0	23
	%	30	61	9	0	100
質問10 不登校生徒、その保護者へのアプローチを定期的に行い、家庭と連携しながら、生徒支援に努めている。	数	12	11	1	0	24
	%	50	46	4	0	100
質問11 危機管理マニュアルに基づき、防災学習、避難訓練、安全点検など、安全・安心な学校づくりに努め、生徒の防災意識の向上を図っている。	数	10	11	2	0	23
	%	43	48	9	0	100
質問12 教育活動全般において感染症対策に努め、生徒への新しい生活様式への意識化を図る指導を行っている。	数	14	10	1	0	25
	%	56	40	4	0	100
質問13 学生会活動への支援を行い、体力づくりの指導を適切に行っている。	数	12	11	1	0	24
	%	50	46	4	0	100
質問14 七校長会を中心に、効果的に小中学校の連携が図られている。	数	6	17	2	0	25
	%	24	68	8	0	100
質問15 学校・学年・学級だより等の便りを定期的に発行し、PTA活動・学校行事など学校の教育活動を知ってもらうための努力をしている。	数	14	8	1	0	23
	%	61	35	4	0	100



令和3年度 学校評価（自己評価）に係る成果と課題・改善方策

1 学校経営の努力点

- (1) 確かな学力
- (2) 豊かな心
- (3) 健やかな体
- (4) 開かれた学校

2 成果と課題・改善策について

- (1) 確かな学力 <生徒①②③ 保護者①② 職員①②③④⑤>

①「甲府スタイル」をモデルとした授業づくり（ICTの効果的な活用・授業実践）

- ・ 今年度は GIGA スクール構想初年度で、ICT の活用が校内研究のテーマにもなっていることもあり、各教科で ICT を活用した授業づくりに取り組んでいる。その効果もあり、ほとんどの生徒が積極的に授業に参加したと答えている。また、授業の内容について、72%の保護者が「わかっている」、「だいたいわかっている」、28%の保護者が「わかっていない」、と答えている。Chrome book を活用することで、生徒の興味・関心、学習意欲の向上を図ることができ、生徒は授業にとっても集中して取り組んでいる様子が見えてくる。この Chrome book の利点を活かし、興味・関心を高め、学習内容の定着をめざす授業を展開し、「わかる授業づくり」に今後も取り組んでいきたい。

また、Chrome book の使い方については、生徒の約27%がまだ少し不安を感じている。今年度は1年生を中心に、朝の自主活動の時間にタイピング練習や eラーニングを取り入れているが、生徒が積極的に授業で活用するために、各教科、総合の時間等に計画的にオリエンテーションを位置づけ、様々な活用法について探っていききたい。

②自主活動の充実・振り返り学習

- ・ 今年度も昨年度に続き、授業が家庭学習と連動するような課題や宿題の提示について各教科で工夫した。生徒の約75%が自主学習を「行っている」、または「時々行っている」と答えている。一方で、25%が「あまり行っていない」、または「行っていない」と答えている。保護者の回答では56%が「よく行っている」、44%が「あまり行っていない」と答えている。課題提示がある場合には真面目に取り組むが、自主的かつ計画的な家庭学習の習慣化には、まだ課題が残る。

今後も生徒に家庭学習の必要性を伝えるとともに、学校で学習したことが定着するような取り組みの工夫を継続していきたい。

③特別支援教育に関する研修と共通理解の推進

- ・ 特別な支援を必要とする生徒について全職員の共通理解を図るため、学期ごと設置した校内委員会と毎月の職員会議において、生徒に対する特性の理解と適切な支援について情報提供を行い、校内支援体制づくりに努めた。また、必要に応じ、当該学年や担任と連携し、保護者とのケース会議を設定し、本人および保護者に具体的な支援方法を示す機会を持つことができた。

個別支援については個別の対応が必要であり、その支援方法にも多様性があるため、個別のケースに対して丁寧に情報を活用し、適切な指導、支援が必要となる。私たちは、これらの多様な指導法をこれからも学びながら、生徒・保護者と向き合うことが必要であると感じている。

来年度も学期ごとの校内委員会と特別支援教育に関する校内研修会はもとより、よりタイムリーなケース会議等を実施し、特別支援教育の推進と共通理解に努めていきたい。

(2) 心の教育

① 道徳 <職員⑥>

- ・ アンケート結果から、Aをつけた教員が41%、Bをつけた教員が59%と全教員が肯定的な回答をしており、CDはゼロである。この結果から道徳授業の充実による「思い遣る心」の育成に向け、授業実践に努めてきたことがわかる。

一昨年度より継続してきた、授業で学んだこと・感想を記入するOPPシートの活用により、生徒自身が自己の心の変容を見取ることはもちろんのこと、教師も生徒の記述から自己の授業実践を振り返り、毎時間のねらいに迫れるような授業改善も行われている。また、今年度よりChromeBookが導入され、ICT活用を念頭においた授業実践が精力的に行われている。

今年度は、校内研究の授業実践でも、ICTを活用した、「考え、議論する」道徳の授業実践を行い、全教員で授業参観を行い、学び合うことができた。特に、ICT機器としてChromeBookが導入され、具体的な活用場面、有効的な活用法など情報共有を行い、各教科でも工夫して取り組んできている。

今後もICTをより効果的に活用し、生徒が自分自身や他者との対話を通して、学びを深められるような授業づくりを行っていきたい。また、よりよい授業実践を行っていくために、「職員間で指導案の検討」、「ICTを活用した授業の参観」などを行い、全教員が「考え、議論する」道徳の授業づくりに取り組んでいきたい。

② 一人一人の持ち味を認め、活かす集団づくり

<生徒⑤⑥⑦⑧ 保護者⑤⑥⑦ 職員⑦⑧>

- ・ 生徒、保護者、教員の思いやりに関する質問（思いやりの心を持って接しているか。）では、A（よくできている）とB（だいたいできている）につけているのは生徒と教員は96%、保護者は95%と高い評価となっている。コロナ禍と

ということで様々な制約があり、難しい状況ではあったが、日々の生活や、例年とは違う形で行われる学校行事を、仲間と協力して創り、ひとつひとつ乗り越えてきたことでこのような結果になったと思われる。しかし普段の生活のなかで、時折心無い言動が見られる場面もある。学友会活動を行う中でも「思いやりの心」を育てていきたい。また、学友会で行った「いじめ撲滅宣言」のような生徒が主体的に取り組む活動を、今後も継続していきたい。

- ・ 生徒、保護者の学友会活動に関する質問（学友会活動に積極的に参加しているか。）では、A（よくできている）とB（だいたいできている）につけているのは生徒98%、教員96%、保護者87%と高い評価となっている。昨年と同様に、行事や委員会活動などの内容や規模は縮小されたが、その中で工夫を凝らして活動を行ったことで、例年と同じように達成感や充実感を得ることができたことと生徒は感じていることが分かる。しかし保護者の15%はあまりできていないとの評価であるため、来年度は、今年度の活動をベースとしながら取り組み内容を見直すとともに、生徒の活動の様子が保護者に伝わるような工夫をしていくことが重要である。
- ・ 生徒、保護者、教員の自己有用感の育成や心の居場所づくりに関する質問（学校の活動の中でやりがいを感じているか。）では、A（よくできている）とB（だいたいできている）につけているのは生徒95%、保護者89%、また教員の96%がそのような環境づくりに努めているという結果となっている。コロナ禍で様々な制約や行事の実施時期の変更などが多々あったが、そんな中でも学友会活動を通して、生徒の持ち味を互いに認め合ったり、それを活かす活動場面を設定したことを通して、教員と生徒の信頼関係を築くよう努めていたことが、このような結果に繋がったものと思われる。今後も生徒の持ち味・個性を重視し、それを活かすような活動場面を学友会活動の中で設定していきたい。

③ いじめ・不登校の未然防止・早期対応 <生徒④ 保護者③④ 職員⑩>

- ・ 保護者は、自分の子どもが学校の中で居場所があり、楽しく学校生活を送っているかという質問に対して、89.1%がA・Bに回答している。また、95%以上の生徒が、学級・学年・その他の学校の活動の中でやりがいを感じている。今後も、一人ひとりの活躍の場を設定するとともに、職員間の連携を図りながら、諸活動への適切な評価を実施し、生徒の自己有用感の向上をめざしていきたい。
- ・ 生徒は、困ったことがあった時に親・先生・友だちに相談しているかという質問に対して、86.5%がA・Bに回答しており、多くの生徒が困りごとを解決する手だてを持っていることが分かる。保護者は、自分の子どもが困った時に、親に相談しますかという質問に対して、86.8%がA・Bに回答しており、肯定的な評価である。また、積極的な行事への参加を支援し、生徒理解に努め、信頼関係づくりに取り組んでいるかという質問に対しては、ほぼ全ての職員がA・Bに回答しており、職員が重点的に指導していることが分かる。一人ひとりのよさを認め、生かす集団づくりに向けた職員の取り組みの成果として、保護者から生徒が活躍する場を持って学校生活を送っていると認識していることが挙げられる。ただ、85%以上の生徒が誰かに相談できる相手を持つてはいるものの、相

談できる相手のいないと回答した生徒が約15%いる。生徒指導は、生徒理解からといわれる。生徒とのコミュニケーションを図る機会を適切に捉え、情報を職員、家庭と共有しながら、一人ひとりの生徒に寄り添う支援体制、相談体制のさらなる充実に努めていきたい。

- ・ 職員へのアンケートでは、二者懇談の実施や情報交換、家庭との連絡を通して、個に応じた適切な支援に努めているという質問に対し、ほぼ全職員がA・Bと回答している。多くの生徒や保護者は、学校での人間関係や居場所について満足している。しかし、人間関係等で悩んだり、不安を抱えている生徒も少なくない。また、不登校生徒もいる。今後も、これらの課題を正確に分析し、いじめ・不登校の未然防止、諸問題に迅速かつ適切に対応するため、職員間の情報交換・情報共有および家庭との連携を重視し、一人ひとりの生徒の内面の理解に努めていきたい。

(3) 健やかな体

① 実践的な防災・防犯訓練の実施 <生徒⑨ 保護者⑧ 職員⑪>

- ・ 安全や防災に関わる意識は全体的には高いと言えるが、どのアンケートでも全体の10パーセント以上はそれほど意識していないことが分かる。特に保護者アンケートでの「家庭内で防災に関して確認していることがあるか」については、30パーセント以上が「あてはまらない」という結果であった。

防災に関わる授業だけでなく、学校生活の中で日常から安全や防災に関わる話をする事で意識を高めていきたい。また、今年度も十分に避難訓練を行うことができなかったが、防災に関わる動画などの教材を活用した防災学習の実施など計画的に取り組んできた。

今後は、自然災害に関する学習や避難、危険回避の方法など、具体的な内容について学習する機会を設定し、生徒の防災意識の向上に努めたい。また、日常生活の中で突然起こる災害にどのように対処し、行動していくなど、職員自らの意識改革を進めるとともに、年間を見通した学習、訓練計画を推進していきたい。

② 新しい生活様式を踏まえた取り組みの推進 <生徒⑩ 保護者⑨ 職員⑫>

- ・ 今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により【新しい学校生活様式】を意識して、生活せざるを得ない状況であった。そんな中で、生徒や保護者、教員も大多数が「新しい生活様式を踏まえた取り組みをしている」と回答をしている。しかし、生徒と保護者の10%が「あてはまらない」と回答していることから、引き続き意識して感染対策を行っていくことの呼びかけや指導をしていく必要を感じる。

継続した取り組みが効果的であると認識している場面では、一応の意識化は図れるが、長期にわたる取り組みや、状況に改善の兆候が見られるとやはり、取り組みが希薄になる傾向も感じられる。このことを踏まえ、便りの発行や、教材の提示などを計画的に行い、職員への意識化を図りながら、学級・学年を通して各家庭との連携を図っていきたい。

③ 「体力づくり」の充実 <生徒⑪ 保護者⑩ 職員⑬>

- ・ 生徒（健康を考えて、体力づくりなど体力の向上に励んでいるか）82%、保護者（お子さんは進んで運動するなど、体力づくりに努めているか）63%が肯定的な回答だった。昨年度と比べると、生徒は若干向上し、保護者は大幅に低下した。昨年度よりも部活動や体育での制限が緩和され、学校の中で体を動かす機会が増えた一方で、まだまだコロナ禍で外へ出る機会が少なく、分散登校などで家庭で過ごす時間が長くなり、このような結果になったと思われる。

学校の中で生徒たちは、部活動・体育・週1回行われる体力づくりにとても意欲的に取り組んでいる。家庭に戻ったときにも、進んで体力づくりに努めるよう、健康な生活の大切さを説いていくとともに、万が一、休校処置や分散登校になった時は体力低下を予防するための適切な課題を出せるようにしていきたい。週1回の体力づくりは、北中の伝統でもあり特色のひとつである。今年も、遅刻者や忘れ物も少なく、3年生を中心に意欲的に取り組むことができている。この週1回行われる体力づくりは、学友会の取り組みのひとつでもあり、全校で取り組める大切な機会であるため、今後も継続していきたい。

(4) 開かれた学校

① 七校長会による情報交換と小中連携の推進

- ・ 定期的に地域の小中学校の校長による情報交換や小中の連携のあり方について広く意見交換を行っている。感染症予防・学校行事のあり方・各行事の学校の対応など、多くの情報を提供していただいた。また、共通歩調で実施している「NOスマホ Day」は各家庭の協力をいただき、年2回実施しているが、ネット社会、ゲーム依存など社会現象化している課題に向き合うよい機会となっている。
- ・ 学区内小中合同研究会は今年度実施できなかったが、各教科、特別活動等の連携や、生徒理解としての連携など、進学先となる中学校にとっては非常に重要であり、来年度以降も実施に向けて計画していきたい。

② 学校・学年だより・学校HPによる情報発信 <生徒⑫ 保護者⑪⑫ 職員⑮>

- ・ 生徒、保護者、教員アンケート結果より、C・Dをつけた保護者が26名、生徒は34名、職員は5名という全体の約10～15%であった。各月末に定期的に発行している学校便り・学年通信、各担任により発行される学級通信、各行事やお知らせ等を発信する学校ホームページと各担当で取り組んではいるが、アンケートの結果から、より創意工夫した内容を検討していく必要を感じる。

各通信は、学年・学級・学校生活の様子や生徒の活躍を中心に発信しているが、感染症対策のため、授業参観や学級懇談会の中止、各行事の参観の人数制限など、家庭への学校公開が制限されている現状を踏まえ、各家庭で学校の情報を得る重要な役割を果たす通信であることを再度認識し、内容、発行回数等、精査・検討しながら、きめ細かなよりよい情報発信に努めていきたい。

PTA 活動や学校行事への参加については、CD と回答している保護者は 86 名で体の 20% を占めている。しかし 80% の保護者は参加に前向きである。学校の教育活動を支える各家庭の力と各行事を支える組織としての PTA の活動に恵まれ、感染症予防対策により、様々な内容が制限されている状況の中での 1 年間であったが、多くの場面で協力を得て、保護者参観が実施できている。

今後も保護者との信頼関係を築き、家庭と連携して生徒への支援を行うために、学校の実情、諸課題と向き合い、情報を適切に発信しながら、理解と協力を得る努力をしていきたい。

③ 地域教材及び地域人材の活用

- ・ 甲府ドリームキャンパス、職業講話、福祉講話、安全教室、がん教育、情報モラル教育など、総合の時間を活用し、各学年で地域人材を活用した授業を設定した。生徒の興味関心を高め、将来を見つめ、自分と向き合うよい機会となったと感じている。

今後も、人材の活用や地域教材を有効に活用し、生徒の視野を広め、地域を理解するとともに、将来の進路選択・自立に向けた意識の向上を図ることを目指し、計画的に実施していきたい。

3 自由記述より

(1) 職員アンケート

① 発問・学習形態・ICT の活用など工夫して授業を行っている。

- ・ 校内研究のテーマでもある ICT の活用について、デジタル教科書やタブレットを利用した授業は、準備、教材作りなど負担はあるが、生徒の興味関心を高め、積極的な授業参加につながったと思う。また、Chrome book の活用により、動画、e ライブラリ、意見交流など、様々な用法について教員の学ぶ場ともなった。

今後はタブレットの活用法をさらに習得し、生徒の基礎基本はもとより、思考力・表現力向上を目指す授業実践につなげていきたい。

② 教科の研修に努めるとともに、授業と家庭学習が連動するような工夫をしている。

- ・ 各教科において、授業の「振り返り」となる学習の機会をつくることができた。また、Chrome book を活用した「e ライブラリ」の取り組みも効果があったと思う。

今後は、授業での学習が、自主的かつ計画的な家庭学習の確立を目指し、課題提示の内容や計画的な学習課題づくりに取り組みたい。

③ 朝学習や新聞スクラップなど各学年の取り組みの成果は出ている。

- ・ 全校での新聞スクラップの取り組みは、教科を超えた意識化を図る上で効果的な取り組みだと思う。まとめ方、発表の方法などまだ課題はあるが、社会問題や環境問題など生徒の興味関心を高め、視野を広げることにつながると感じている。
また、各学年の取り組みとして、ドリル学習や Chrome book を活用したタイピング練習など、自主的な活動として習慣化された取り組みになっている。

④ 新しい評価内容を理解し、日々の学習について記録の蓄積に努めている。

- ・ 授業中でのワークシート、学習記録カードの活用や小テストなどを評価材として組んできているが、適切な評価のあり方、特に「学びに向かう力」の評価材のあり方、評価方法などについては今後も研究していく必要性を感じている。今後も新しい評価については、各教科の実践や授業観察などを通して学校全体で学び合うことが大切である。そのために、各授業および各単元にどのように評価を位置づけて授業を展開していくかを常に意識して授業づくりを行い、その記録を蓄積していくことも大切である。

⑤ 情報収集に努め、定期的な二者懇談の実施や職員間の情報交換を通して、個に応じた適切な支援に努めている。

- ・ 学校生活アンケートの実施や進路相談など定期的に二者懇談を実施し、生徒の状況把握に努めている。また、生徒指導部会をはじめ学年会議や職員会議で情報の共有を図り、個々の生徒理解に努めている。しかし、生徒の内面までの理解が進まずに、家庭に不安を抱かせる場面もあるのが課題といえる。計画的な二者懇談も重要であるが、日々の生活の中での生徒との信頼関係の確立も忘れてはならない。
今後も職員間のコミュニケーションを大切に、チームで取り組む支援体制の構築に努め、一人ひとりの生徒に寄り添う支援に心がけたい。

⑥ 学習形態や発問を工夫し、「考え議論する」道徳の授業の実践に努めている。

- ・ 小グループによる話し合い活動に加え、Chrome book を活用した意見交流や発表など ICT 機器の利用により、活動の幅が広がったと思う。また、校内研究会や授業研究の実践により、学校全体で学び合う場が設定でき、授業者としての視野を広げることができたと感じている。資料作りや、授業の展開など準備に時間はかかるが、この実践の積み重ねと新しい教材や機器の活用法を学ぶことで、生徒の興味関心を高め、積極的な活動を創造できると考えている。

⑦ 生徒の積極的な行事への参加を支援し、生徒理解に努め、信頼関係づくりに取り組んでいる。

- ・ 生徒は、各行事を通して、確実に成長している。自主的な活動やお互いへの声かけなど、集団としての力の向上を感じている。リーダーの活躍、周囲の友人のサポートと、集団としての成長を感じることができる。この集団の力を支えているリーダーへの適切な支援、及び周囲の生徒へのアプローチなど、常に意識して集団づくりに努めてきている。この積み重ねが、生徒との信頼関係につながると感じている。

⑧ 学級活動等、諸活動の中で、思いやりの心を育て、支え合う集団づくりに努めている。

- ・ ひとつの目標に向かって全員が同じ方向を向くこと、そして目標達成のために何ができるかを考え、行動すること。これが集団の力を高めるエネルギーになる。わかっている、心のすれ違いは起こるものだ。いろいろな場面で課題が確認できたとき、自分にできることは何か。自分がしてはならないことは何か。自分は人に迷惑をかけていないか。自分はみんなのために何かしているか。等について、考える機会を設定する。このときの心の動きが必ず思いやりの心となってかえってくる。生徒の考えを尊重し、認め、応援する機会を同時に持ちたい。

⑨ 道徳、総合の時間を計画的に活用し、命を大切にし、豊かな心を育てる指導に努めている。

- ・ 「命の授業」「安全教室」「福祉講話」など、各学年で計画的に実施し、生徒の「感じて・考えて・自分を見つめる」機会が持てたと思う。事後の感想文は学校便り等で発信しているが、有意義な時間となっている。また、年間を通して取り組んでいる道徳では、「集団生活の向上」「思いやり」をテーマ問い、様々な切り口の題材を活用し、各学級で取り組んでいる。

⑩ 不登校生徒、その保護者へのアプローチを定期的に行い、家庭と連携しながら、生徒支援に努めている。

- ・ 日々の電話連絡や定期的な家庭訪問を実施し、生徒及び家庭とのつながりを重視しながら取り組んできている。また、ひとり一人要因があり、その要因と生徒自身あるいは家庭が向き合っていることを理解し、丁寧に対応している。
放課後登校、時間差登校、あすなろ学級への通級と本人・家庭との理解を得ながら支援を進めてきているため、全休の生徒は減少してきている。しかし、各生徒の抱えている課題を正確に把握することが困難であり、内面に迫る支援までは届かない現状もある。今後も関係機関への相談や本人へのアプローチ、保護者との連携をより深めながら、継続して取り組んでいきたい。

⑪ 危機管理マニュアルに基づき、防災学習、避難訓練、安全点検など、安全・安心な学校づくりに努め、生徒の防災意識の向上を図る指導を行っている。

- ・ 月1回定期的に各担当場所の安全点検は実施しているが、校舎の老朽化が心配である。

防災及び防犯に関する避難計画・危機管理については年間を通してマニュアルの見直しと避難訓練を実施している。今年度は自然災害に関わり、洪水避難について、教材の作成と、それを活用した防災学習を各学級で実施した。

アンケート結果から非常時の対応や非常時の家庭内での確認事項など、時間をかけて話し合われていない状況がわかる。今後は、災害の傾向、避難レベル、避難所、感染症と避難場所、家庭内の約束など道徳・総合の時間等を活用しながら、生徒への意識化を図り、避難行動を含めた防災教育に取り組んでいきたい。

⑫ 教育活動全般において感染症対策に努め、生徒への新しい生活様式への意識化を図る指導を行っている。

- ・ 保健便りの発行、掲示物作成、検温、消毒の機器など、感染症予防のための準備を進めるとともに、職員及び生徒・家庭への意識化を図る資料の提示、連絡調整等、養護教諭を中心に取り組んできている。また、登校時の検温、健康カードの指導など職員体制で継続した取り組みを行っている。しかし、学校生活の中で徹底した予防の呼びかけも、長期にわたる取り組みの中で、「油断」「意識の低下」などが感じられる面もある。

感染拡大が心配されて久しいが、継続した取り組みこそ必要とされていることなので、定期的な課題の提示と学校全体での確認の機会を大切に、今後も取り組んでいきたい。

⑬ 学校・学年・学級だよりなどのたよりを定期的に発行し、PTA活動・学校行事など、学校の教育活動を知ってもらうための努力をしている。

- ・ 便りを定期的に発行したり、学校ホームページの更新により、学校行事、学友会行事あるいは委員会活動など幅広く発信してきている。今年度はPTA新聞の代わりに情報活動部の取り組みとして、学校行事を中心にPTA便りの発行も実現した。また、学友会本部発行の便り、委員会発行の便りなど、生徒による情報発信が活発に行われている。

(2) 保護者アンケート

■学校行事について

- 地域感染レベルに応じたガイドラインに準じながらの実施であったため、今年度も例年通りにはいかない部分が多々あった。特に保護者参観という点では制限を設けざるを得ない中での実施ではあったが、多くの皆様から好評価をいただいた。また、諸活動の参観回数が少ない分、HP等を活用し、できる限り画像や動画を通して、生徒の様子を保護者の皆様に発信したことや、学校からの各便り（学校・学年・学級便りなど）も好評価をいただいた。
- 来年度についても、それぞれの行事の意義を生徒はもとより、保護者の皆様にもしっかりと伝えた上で、今年度同様、感染防止対策については万全を期し、保護者の皆様のご協力も得ながら、地域感染レベルに応じた実施方法を探っていきたいと考える。

■生徒指導について

- 一人ひとりに寄り添い生徒理解に努める教職員の姿勢を認めていただいた言葉を今後の励みとしたい。ただ、「電話対応時や学校行事における指導場面での教職員の言葉使いが気になる」とのご指摘をいただいた。今後、教職員一人ひとりが自身を振り返り、生徒はもとより保護者の皆様に対しても、誤解を招くことのない対応を心がけていきたい。
- 今年度より人権教育の一環としての男女混合名簿をはじめとするジェンダーレス教育の導入について、好評価をいただいた。今後、さらにその視点を生かしながら、これまで当たり前に実施してきた活動内容を見直してほしいとの声もいただいた。改めてそれぞれの活動における目標を鑑み、内容を検討していきたい。
- 防寒着着用の期間についての質問は、内容の周知不足によるものだった。着用時期については、おおよその月は決めてはいるものの、季節の変わり目の気温等を鑑み、衣替え期間を流動的にするとともに、防寒着の規定も緩和してきた。今後、生徒のみならず保護者の皆様にも確実に周知できる工夫を考えていきたい。

■学習について

- GIGAスクール構想元年となった今年度、各教科において一人一台端末の活用を積極的に試みたが、慣れるにつれ、授業中に関係のない動画を見てしまう生徒がいるなどの使用規律の問題についてご指摘を受けた。予想はされていたことではあるが、粘り強く使用時のモラル、マナー、ルール等に関する高める指導を継続していきたい。

○授業における個に応じた指導の工夫についての要望をいただいた。その時々
の生徒の理解度や定着度の理解に努め、授業展開に活かす工夫を心がけてい
きたい。

■部活動について

○コロナ禍であるため、保護者による試合観戦等ができない競技がほとんどであ
ったため、生徒の活動の様子が知りたいという要望があり、可能な限り、職員
で撮影した画像や動画をホームページに掲載した。来年度も可能な範囲で継続
を考えている。また、休日の活動時間の保障についての要望もいただいた。生
徒達が楽しみにしている活動でもあることから、参加人数が少ない場合につい
ても、活動内容を工夫しながら、活動時間を保障することを考慮していきたい。

■その他

○新型コロナ感染症予防対策の一つとして、保護者の皆様からの要望もあり、昨
年の5月の学校再開より、夏季、冬季とも、制服と体育着を組み合わせでの着
用を可とし、今年度もその対応を継続してきた。これまでの規定を緩和した。
地域感染レベルを鑑み、できる限り制服着用を原則とした生活スタイルに戻し
ていきたいと考えている。

○校舎の老朽化による、安全衛生面に対する心配が多く寄せられている。実際、
今年度（12月末現在）の営繕申請は34回である。今後も生徒の安全衛生面を
考えて、心配な個所が見つかった場合には、迅速に対応するとともに、甲府市
への校舎の改築等に関する要望を継続していきたい。

令和3年度 学校関係者会（学校評議員会）

1 日 時 令和4年2月16日（水）9：00～10：00

2 場 所 校長室

3 出席者

- ・学校評議員 古屋 知子 様 猪股 秀男 様 山田 貴久子 様
- ・北中学校 岡林 健児 校長 中丸 徳仁 教頭

4 内 容

- ・令和3年度学校評価について ・学校評議員の方からのご意見 ・情報交換
- ※ 学校長挨拶、教頭から学校評価の説明を行った後、評議員の方からご意見をいただいた。

（1）学校の現状について（校長より）

- ・今年度も、感染症拡大予防・対策のため、地域感染レベルに応じたガイドラインに準じながら、行事等の変更・修正を行い実施した。家庭・地域への学校開放が十分にできなかったが、学校便り、ホームページの工夫など、情報発信に心がけ、多くの皆様にご理解いただき、好評価をいただいた。特に、PTAの方々のご理解とご協力により、修学旅行をはじめ、北陽祭、合唱祭と大きな成果を収めることができ、感謝している。
- ・今年度は、ICT機器の活用をテーマに研究を進め、わかる授業づくりに全校で取り組んできている。特に Chrome book を活用し、eライブラリの利用や学習の保障のためのオンライン授業へ挑戦し、成果を得ることができた。今後も生徒の興味・関心を高め、基礎・基本の定着を目指し、取り組んでいきたい。
- ・部活動においては朝練習と放課後練習の分割を試みた。具体的には、放課後の活動ができない場合のみ、朝練習を実施するなど、本校独自に活動時間を設定し、生徒の活動の保障に努めた。

（2）学校評議員の方より

- ・北中学校の生徒は、よくあいさつをしてくれる。また、マスクはしていても笑顔を感じることができ、いつも楽しそうだなと感じている。
- ・コロナ禍で、感染も心配だが、学校生活に支障がないか心配だ。先生方も大変だとは思いますが、健康には留意し生徒を見守ってほしい。
- ・学校訪問はできないが、今年は北陽祭や合唱祭を見学することができ、生徒が明るく、元気に取り組む姿を見て安心した。頑張ってきた様子がよくわかる。
- ・回覧板に学校便りが送られてきて、生徒の様子がよくわかり、感謝している。個人情報保護という観点から、生徒名を便りに掲載することについて意見を求められたが、地域住民からすると、生徒の名前を目にするとうれしく感じられる。可能な限り、掲載してほしい。
- ・SNSについては社会問題化しているが、学校でも同様な心配事があると思うので、家庭と連携をとりながら、指導をお願いしたい。

(3) 学校評価について

○生徒用①～④について

- ①「積極的に授業に参加し、課題解決やノートづくりに真剣に取り組んでいる。」
- ②「クロームブックなどを活用した授業では、その使い方などを理解できている。」
- ③「家庭学習に自主的に取り組んでいる。」
- ④「困ったことがあった時に、親・先生・友だちに相談している。」

- ・これらの回答に、C・Dをつけている生徒への支援をしっかりと行ってほしい。(きめ細かな指導と職員間の連携を大切に)

○保護者用⑤「お子さんは学校の中で居場所があり、楽しく学校生活を送っている」について

- ・「子どもの居場所」としての学校に対し、C・Dの評価をつけた保護者がいる。家庭において、心配事や不安があるのではないか。このことを課題と受け止め、生徒指導や指導体制作り、具体的な支援など、職員間で共通理解を図り、家庭との連携を視野に入れ、生徒支援に取り組んでほしい。

○職員アンケート集計結果について

- ・多くの設問に対し、教職員の回答にはB評価がA評価を上回っている。Aにならない原因や理由を分析し、これからの教育活動に活かして行ってほしい。

○その他

- ・アンケートの設問項目に、「将来の自分に関する設問」を取り入れてほしい。今の中学生がどれほど「今の社会のことを考えているのか」、あるいは「自分の将来のことを考えているのか」など生徒の考えや感じ方がわかると中学生への理解も深まると思う。

(4) 進路状況について

○不登校生徒やコロナの関係で入試についてはどんな様子か。

- ・不登校生とへの対応を進路指導も含め継続して行っている。家庭訪問や時間差登校放課後登校を実現し、保護者と連絡を取りながら、支援を行っている。3年生については通信制や全日制高校などへの進学を目指し取り組んでいる。すでに内定をいただいている生徒も多い。また、前期入試や私立高校の入試も終わり、後期入試に向けて取り組んでいる。

(5) SNSの課題

○スマートホンやSNSの使用について、学校はどんな取り組みをしているか。

- ・SNSのトラブルは少ないが心配されている。1年生の4月には情報モラル教育として学習会を実施したり、各学級で計画的に二者懇談を実施し、状況把握に努めると共に注意喚起を行っている。また、学年通信を利用し、「各家庭へのお願い」も定期的に行っている。
- ・授業で使用しているChrome book について分散登校等で家庭への持ち帰りが始まった。その使用についてのルールやマナーについて職員間での共通理解を図りながら指導している。